

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成22年4月8日 (2010.4.8)

【公開番号】特開2007-279738(P2007-279738A)
 【公開日】平成19年10月25日 (2007.10.25)
 【年通号数】公開・登録公報2007-041
 【出願番号】特願2007-98829(P2007-98829)
 【国際特許分類】

G 0 9 G 3/30 (2006.01)

G 0 9 G 3/20 (2006.01)

H 0 1 L 51/50 (2006.01)

【 F I 】

G 0 9 G 3/30 J

G 0 9 G 3/20 6 1 1 H

G 0 9 G 3/20 6 7 0 J

G 0 9 G 3/20 6 2 4 B

H 0 5 B 33/14 A

G 0 9 G 3/20 6 2 3 R

G 0 9 G 3/20 6 2 3 Y

【手続補正書】

【提出日】平成22年2月15日 (2010.2.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

発光素子と、

前記発光素子に駆動電流を供給する駆動トランジスタとを含み、

前記駆動トランジスタにはデータ電圧または逆バイアス電圧が交互に印加され、

前記逆バイアス電圧は交流電圧であることを特徴とする表示装置。

【請求項 2】

前記駆動トランジスタに接続され、走査信号によって前記データ電圧を伝達する第 1 スイッチングトランジスタと、

前記駆動トランジスタに接続され、スイッチング信号によって前記逆バイアス電圧を伝達する第 2 スイッチングトランジスタとを含むことを特徴とする請求項 1 に記載の表示装置

。

【請求項 3】

前記逆バイアス電圧の周波数は、10 Hz ~ 10000 Hz であることを特徴とする請求項 1 に記載の表示装置。

【請求項 4】

前記逆バイアス電圧のデューティ比は、10 ~ 90 % であることを特徴とする請求項 1 に記載の表示装置。

【請求項 5】

前記逆バイアス電圧の最大値と最小値の平均は 0 V より小さいことを特徴とする請求項 1 に記載の表示装置。

【請求項 6】

前記逆バイアス電圧の最小値は、0 V より小さいことを特徴とする請求項 5 に記載の表示装置。

【請求項 7】

前記逆バイアス電圧の最大値は、0 V であることを特徴とする請求項 5 に記載の表示装置。

【請求項 8】

前記逆バイアス電圧の最大値は、0 V より大きいことを特徴とする請求項 5 に記載の表示装置。

【請求項 9】

前記第 1 スイッチングトランジスタ及び前記第 2 スイッチングトランジスタは、交互にターンオンされることを特徴とする請求項 2 に記載の表示装置。

【請求項 10】

前記第 1 スイッチングトランジスタがターンオンされる時間は、前記第 2 スイッチングトランジスタがターンオンされる時間より長いことを特徴とする請求項 9 に記載の表示装置。